

「授業開き」で用いる歴博資料―絵双六を観察してみよう―

千葉県立船橋法典高等学校 竹中 理

1 実施学年及び教科・領域

全日制普通科3学年（選択者23名） 日本史探究（3単位）（令和6年4月実施）

2 学習のねらいと博物館の活用との関連について

（1）単元名：日本史探究 資料とは何か―過去はどうやって知ることができる？

（2）ねらい

①学習指導要領との関連

学習指導要領では日本史探究の「2 内容とその取扱い」の記述に「ウ 内容のA，B，C及びDのそれぞれの（2）については，政治や経済，社会，生活や文化，国際環境など，各時代の特色を生徒が読み取ることができる複数の適切な資料を活用し，それぞれの（1）で表現した問いを踏まえ，中学校社会科歴史的分野における学習の成果を活用するなどして，対象となる時代の特色について，生徒が仮説を立てることができるよう指導を工夫すること。その際，様々な歴史資料の特性に着目し，諸資料に基づいて歴史が叙述されていることを踏まえて多面的・多角的に考察できるよう，資料を活用する技能を高める指導を工夫すること。また，デジタル化された資料や，地域の遺構や遺物，歴史的な地形，地割や町並みの特徴などを積極的に活用し，具体的に学習できるよう工夫するとともに，歴史資料や遺構の保存・保全などの努力が図られていることに気付くようにすること。」とある。

この単元は、日本史探究のガイダンスとしての意味合いが強い。そこで、博学連携研究員だったこともあり、歴博画像データベースにあるデジタル化された絵双六の画像をお借りし、活用してみることにした。まずは、下知識が一切ない状態で画像をグループで観察させて、気づいたことやわからないことをあげさせて調べさせる。次に、絵双六を体験させた後で、何のために描かれたものかを考えさせる。このようにして、自分なりの考えを持つ体験を最初にすることが、これからの1年間の授業で問いを立てたり、仮説を立てたりすることにつながると考えた。

②単元の目標

- ア 絵双六から情報等を抜き出し、教科書やインターネットを用いて、適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。
- イ 絵双六のマス目の意味や意義に着目して、多面的・多角的に考察する。絵双六が作成された理由について考察・構想したことを自分のことばで効果的に説明したり、作成された時代の特徴について考えたりしてまとめる。
- ウ 絵双六を体験するグループワークを通して気づいたことや考察したことを積極的に追及し、自分のこととして主体的に考えをまとめようとしている。

(3) 博物館との関連

①活用方法

「非来館型活用」

②活用資料

歴博画像データベースの『春興手習出精雙六』(H-1558-28)



「寺子屋入門を振り出し、学問の神様である亀戸天神をあがりにした出世双六である。絵師は歌川広重で、作版元は、団扇堂伊場仙。当時の寺子屋の教科書である往来物の書名と関連する略画及び発句をあしらっている。コマの配置から、当時の手習本の難易度の順などもうかがえる。近世後期の教育のありかた、あるいは知のありようを視覚的に示す史料である。※出典：『歴博』163号(2010.11)歴史の証人－「絵双六」

○席書 (四) 上り (五) 庭訓 ★(六) ほうび 「席書を 花のしきしや 小倉 かん」紅谷志津摩 「鶯も 机はなれや 梅に來 て」芙蓉庵	○上り 「御鏡に しら梅寒き あした哉」深海堂 「鶯に ひかり和らく 宮居かな」晴雪樓 広重画			○褒美 (一) 庭訓 (二) 席書 (三) 上り 「千代かみの 春のにしきや 桃さくら」藤田かみ見世 「万代(よろずよ)や こうよ とはかり 月と梅」菊守園
○風月往来 (一) 席書 (二) 庭訓 (三) 商売 「柳には 風よ 月には 梅の 花」瑞雪	○商売往来 (一) ほうび (三) 消息 (五) すみた川 「算盤の 玉にはつれる 花 こゝろ」晴尽	○隅田川往来 (二) 席書 (四) 消息 (六) 庭訓 「家々の さくらは重し すみ た川」霞山	○消息往来 (四) 庭訓 (五) 商売 (六) 風月 「草に土筆(つくし) 雁に 古事あり はつかしき」臨水	○庭訓往来 ★(一) 上り (二) ほうび(褒美) (三) 席書 (六) はもん 「庭訓の往来 誰か文庫より あけの春」芭蕉翁
○女国つくし (二) 風月 (四) 今川 (六) げんじ 「水祝ひ 神も蟲屋の ましま すか」映雪	○ちらし文 (三) 留られ (四) 風月(風月往来) (五) 商売(商売往来) (六) ふみ(縦文) 「淡雪や 鳥たつあとの ちら しふみ」香雨	○女今川 (一) すみだ川 (二) ちらし (三) 女国つくし 「今川は なにと制詞を はな の山」晴山	○源氏 (一) 商売(商売往来) (三) ちらし(ちらし文) (五) 女国つくし 「雨の梅 折てにほひを つ まうか」知文	○たて文 (二) すみだ川 (隅田川往来) (四) 源氏 (六) 今川 「紅梅や はるの寒さは 返す かき」其道
○名頭 (一) わらんべ (童部子宝) (二) 方角(江戸方角) (三) みやこじ (四) 留られ 「桃白し 赤きに色も うは れす(奪われず)」 天真	○国尽 (三) 留られ (四) 方角 (五) ふみ(縦文) (六) わらんべ(童部子宝) 「山吹や 山城大和 よしの 山」泰栄	○江戸方角 (一) 今川 (三) 源氏 (五) 国尽 (六) はもん 「霞より 東はつくば にし (西)は不二(富士)」龍池	○都路 (二) 源氏 (四) わらべ (五) 留られ (六) 方角 「紫の 野もせにつく すみ れ哉」 楽山	○童部子宝 (一) ふみ(縦文) (二) 都路 (三) 国尽 (四) 留られ 「子宝と 人はいふなり 宿の はる」 花筋
○留られ (一) 画工・板元の詫にて元座 へ返る。 「よき事は 嫌ふ ためしや 二日灸」 一立斎	○振出し 寺子入・いろは 「あさか山 いろはにほへと さくや梅」大二郎 (一) 名かしら(名頭) (二) 同 (三) 国つくし(国尽) (四) みやこじ(都路) (五) 同 (六) 江戸方角			○はもん(破門) 精出して此つき(次)御上り 「はつ花の かゝしともなれ 此姿」 団扇堂

なお、翻刻については、くもん子ども浮世絵ミュージアム <https://www.kumon-ukiyoe.jp/>
と『絵双六 もうひとつの楽しみ方』梶田静代(京阪奈新書)を参照した。

(4) 指導観

本校は、通常のクラス数に「プラス1クラス」に設定して、1クラスあたりの生徒数を少なくして授業展開をしている。その結果、生徒は、比較的作業学習やグループワークへの抵抗が少なく、他者と話し合い意見を表明することに慣れている。一方で、個々でじっくりと資料を観察して、意見を深めることはまだまだ不十分な生徒も見受けられる。

今回は、2クラス合同の23人の選択講座におけるクラス替え直後の実践である。ペアで資料を見たり、3～4人グループで実際に絵双六体験を通じて、生徒たちが新しい環境や新しい担当者の授業に慣れるきっかけの一つとなることをねらった。

しかし、選択講座といいながらも、積極的に日本史探究を選択した者ばかりではない。そこで、一年間の授業開始時期に、単なる暗記で終わらない科目だというメッセージを送るため、生徒の予想を裏切る授業展開をしようと試みた。また前時に、日本史の時代区分（〇〇時代）の学習をしたばかりだったので、「この絵はいつの時代の絵だろう」と投げかければ、発展学習にもつながると考えた。

そこで、特別に博物館から借りた画像だと伝えてから、初見の絵画資料を配付し、ペアで観察。次に、気づいた情報を、教科書や携帯端末で調べさせ、描かれているテーマに生徒たち自身に気づかせる。さらに、資料が寺子屋（手習塾）を描いた絵双六とわかってからは、授業で実際に絵双六体験させる。最後に、絵双六の「作成意図」とこの絵双六が作成された時代についての考察を教科書を用いてまとめさせることとした。

授業開きの資料は他にも考えられる中で、絵双六を用いたのは、ゲーム的要素が含まれているので生徒たちが嫌がらずに取り組みやすいと考えたことと、文字だけの資料と違いどんな生徒でも観察して何らかの気づきを得やすいと考えたことである。次に、平成27・28年から行ってきた歴博博学連携の授業や通常の授業の中で、絵双六を資料として用いる実践を繰り返し行ってきたことがある。その実践を通じて、実際に絵双六をグループで体験させてから資料の作成意図を読み解かせると、生徒たちの考えが深まる様子を見てきたからである。

今回の絵双六は、江戸時代の庶民の学習活動の様子がわかるものを用いた。マス目には、手習塾で用いられた教材名や俳句に加えて、筆子が怒られている場面も描かれている。生徒も自分自身の学習環境と比較して、当時の人たちの様子をイメージしやすいと考えた。また、この選択講座に書道部の生徒がいたことも、理由の一つである。

3 指導計画（45分授業）

		時間	○学習内容 ●学習活動	□指導上の留意点 ■評価の観点
	導入	5分	○ 資料について	□教科書 p 7 を黙読させる。

1 時 間 目	展開	15 分	○「春興手習出精雙六」(カラー印刷)を観察し、「変だな」「気になるな」と思ったことを3点ワークシートに記入する。	□パワーポイントで双六の画像を示す。
			○最も気になった点をFormsで送信する。 ●2名に1枚配られた資料を観察する。 ●自分で観察したら、前後左右の生徒と相談する。	□Formsを用いて調査する。 □生徒の意見を集約して、スクリーンに示す。 ■主体的に学習に取り組む態度
		15 分	○資料に書かれた情報のうち、何を調べれば、どんなことをテーマに描かれた絵なのかがわかるか。 3点あげて、調べてみる。 ●教科書やスマホを用いて調べる。 ●指名されたら答える。	□スマホを用いて検索させる。 ■思考・判断・表現 □調べた言葉とその内容を、生徒を指名して答えさせる。 ■思考・判断・表現 ■知識・技能 □気になったことをあげさせ、みんなで共有させる。
	まとめ	10 分	○配付資料についてまとめる。 ●「春興手習出精雙六」について ●翻刻した「春興手習出精雙六」を用いて、マス目について簡潔に説明する。	■知識・技能 □資料を配付する。
2 時 間 目	導入	5 分	○前時のまとめと双六の遊び方の説明	
	展開	20 分	○「春興手習出精雙六」で実際に遊んでみる。 ●動いたマス目を記録させる。 ●各班ごとに遊んでみて、気の付いたことをあげる。個人でFormsで送信する。	■主体的に学習に取り組む態度 ■知識・技能 □活動への参加を促す。 ■思考・判断・表現
		10 分	○この資料は何のために作られたと考えるか。 ●マス目の動き方やマス目の絵などから検討する。	□3～4人に1枚ずつ、絵双六を配付する。 □コマの動き方からわかることをあげさせる。 □ワークシート ■知識・技能 ■思考・判断・表現
	まとめ	10 分	○この資料(双六)が作られた時代について教科書も用いてまとめる	□終わらない場合は、家で仕上げるように伝える。

4 実践の概要

(1) 1 時間目



《生徒がマス目に描かれた書物を調べた記録》

調べたところ	調べて (検索して) わかったこと
① 女今川	⇒ 女性が日常に守るべき事柄が「禁裏」の形で記述されている
② 庭訓往来	⇒ 南北朝時代に撰述された往来物書状の文例とあつめたもの
③ 風月往来	⇒ その本文が往来物の一つである

まず、絵双六を資料として観察させることに主眼を置き、「気になった」ことや「変だな」と感じたことをあげさせた。当初はここでFormsを用い、スクリーン画面で意見共有させる予定だったが、教授者の機器操作の不手際から、指名して口頭であげさせる方法に変更した。

くずし字への抵抗が予想以上に大きく、生徒達からはとっつきにくい様子もうかがえたが、徐々に「隅田川往来」「女今川」「風流往来」「風月往来」など読める文字を見つけていった。読めた語句についてスマホで調べさせると、「往来」が「書簡集（手紙集）」であること、「隅田川往来」を調べた者が江戸の地名にちなむことに気がついた。人数が少ない授業であるので、気づいたことをすぐに発言してくれることも多く、意見共有が進んだ。題名の「手習い」という語句を調べさせると、「書道」という言葉に関係することにも生徒たちが気がついた。教授者の方から、「この中には教科書にも出ている語句もある」と前置きして、「庭訓往来」についても調べさせた。

ここまでやりとりしたところで、前時までに勉強していた「〇〇時代」の絵なのだろう」と投げかけると、マス目の人物の着物や「隅田川往来」の解答などから、「江戸時代の絵」ということを発言する者が出てきた。そこで、「江戸時代に書道を学んだところはどこだろうか」と発問すると、「寺子屋」という言葉が返ってきた。最後に、この絵が歌川広重による浮世絵であること、双六形式となっていること、それぞれのマス目についての説明を簡単に行った。

授業の最初に行った「変だな、気になるところ」…formsでの解答より抜粋

- ・見たことのない漢字が多くある。字体が難しくほとんど読めないです。
- ・どうして浮世絵にして作られているのか。
- ・なんでマス目になっているのか気になりました。
- ・「源氏」と書いてあるところの絵がなんなのかわからない。

※総じて、字が読めないという内容が多く書かれていた。

(2) 2 時間目



翻刻資料を配付し、カラー版の絵双六と照合させ、マス目の動き方について簡単に説明した。その後、3～4人組で実際に絵双六を体験させた。体験させるときに、動いたマス目の軌跡についてできるだけ記録を残させた。20名中4名が「あがり」となった

残りの授業時間で、「この絵双六で遊んでみてわかったこと」と「何のために作られたものだと思うか」についてワークシートにまとめさせ、Formsで報告させた。さらに、教科書の記述も参考にさせ、「この資料が作られた時代（江戸後期）はどんな時代だったか」をまとめさせた。以下は、コマの生徒の考えたことの抜粋である。

《生徒のコマの軌跡》 4段目のマス目をはじめ、なかなか進まない様子がうかがえる。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1	名頭	江戸方角	江戸方角	国尽	名頭	名頭	国尽	都路	都路	名頭	国尽	国尽	名頭	名頭	名頭
2	童部子宝	女今川	国尽	童部子宝	童部子宝	留られ	国尽	江戸方角	源氏	名頭	留られ	江戸方角	童部子宝	都路	都路
3	たて文	女今川	童部子宝	国尽	留られ	留られ	国尽	破門	女国つくし	江戸方角	留られ	都路	童部子宝	源氏	江戸方角
4	たて文	女今川	都路	江戸方角	留られ	留られ	たて文	振り出し	源氏	源氏	振り出し	童部子宝	たて文	女国つくし	江戸方角
5	たて文	隅田川往来	源氏	女今川	留られ	留られ	隅田川往来	国尽	女国つくし	源氏	国尽	江戸方角	女今川	源氏	破門
6	隅田川往来	席書	源氏	女国つくし	留られ	留られ	隅田川往来	留られ	風月往来	源氏	たて文	国尽	女今川	女国つくし	童部子宝
7	席書	席書	女国つくし	女今川	留られ	留られ	隅田川往来		商売往来	源氏	たて文	女今川	ちらし文	女国つくし	童部子宝
8	褒美	上り	風月往来	ちらし文	留られ	留られ	消息往来			源氏	女今川	ちらし文	ちらし文	女国つくし	都路
9	庭訓往来		風月往来	風月往来	留られ	振り出し	消息往来			女国つくし	隅田川往来	留られ	ちらし文	源氏	江戸方角
10	破門		風月往来	席書	童部子宝	都路	消息往来			女国つくし	消息往来	商売往来	ちらし文	商売往来	源氏
11	童部子宝		風月往来	庭訓往来	童部子宝	源氏	消息往来			風月往来	商売往来	褒美	ちらし文	隅田川往来	源氏
12	たて文		風月往来	席書	童部子宝	商売往来	商売往来			風月往来	商売往来		ちらし文	庭訓往来	ちらし文
13	たて文		席書	上り	童部子宝	隅田川往来	商売往来			庭訓往来	褒美		商売往来	褒美	留られ
14	隅田川往来		褒美		童部子宝	席書	商売往来			席書	上り		褒美	席書	留られ
15	隅田川往来		庭訓往来		留られ	庭訓往来	褒美			褒美			上り	褒美	振り出し
16	童部子宝		庭訓往来		留られ		褒美			席書				褒美	名頭
17	女今川		童部子宝		留られ		褒美			褒美				褒美	留られ
18			都路		留られ		褒美			褒美				庭訓往来	振り出し
19			名頭		留られ		褒美			褒美				庭訓往来	名頭
20			江戸方角		留られ		褒美			褒美					都路
21					留られ		褒美			席書					童部子宝

《双六で遊んでみてわかったこと》

同じマスをしつたりきつたり、下にいつたりでほぼ運ゲーだと思ったけど、いっぱい勉強させるためののかなと思えた。

現在のところより方がるのがある。今とはちがって書かれている数字の場所に行かなければいけないから、六や五かいても運がいいとはかまらないうえと思えた。

《この双六は何のために作られたと思うか》…Forms での解答より抜粋

- ・最初は、かるた・遊び用などに作られたと思いました。なぜかと言うと、字は読めませんがその書かれた字に対しての絵だったり風景だったりすると思ったからです。他にも下に書かれてある学校みたいなものが書かれているので学校の授業などで使われたのかなと思いました。
- ・習字（寺子屋）の宣伝として作られた クリアするのが大変（上るのが難しい）→上達するのが難しい（卒業するのが大変）
- ・いろんなマス目を行き来する→いろんな教材を行き来して使っていたなどと表していると考えた”
- ・子供たちが楽しみながら知識を増やして、学べることができるように絵と文字とになっていると思う。上に上がるために色んなマスを行ききすることによって、色んなマスのことが学べるし同じマスを止まったとしても、一回目の時よりも覚えることが出来る。ひとつひとつのマスが日常生活に役立つものが書いてあってある。
- ・この双六をやって「留られ」のマスは6分の1しか上のマスに戻れない作りになっていたのでこの絵の男の子の様な罰を受けたらこれくらい大変だよ、と子供に教えているのではないかと思った。他にも上のマスに行くほど豪華な料理や綺麗な鳥の絵が増えていってるので勉強すればするほど良いことあるよ、と子供に教えていたのではないかと思った。
- ・双六という遊びを通して多くの人々に一つ一つの物、場所の名前や言葉を広く知ってもらおうとしたのではないかと考えた。寺子屋やその他の学校に通う子供たちが楽しくわかりやすく学べるようにと工夫されたものだとも思う。
- ・「留られ」というマスでは1が出ない限り他のところに行けないことからバツのつらさを進めないムカつきと重ねていると考えた。また、いろいろな道を通して沢山の経験をつむことでやりきることができるという最初から最後までまでの過程をすごろくで表すことでやりきる事の凄さや難しさを示して少しでもつらさを体感できるようにするために作ったのかなと考えた。

- ・寺子屋に入る前の子供に、そこはどういうところをするところなのかなどのお遊び半分で、生半可な気持ちで通って終業できるわけではないということを幼いながらあらかじめ覚悟してもらうため。浮世絵、学問などのそのときに流行ったり発展したものを全て合わせたうえで子供に予備知識(一般常識、一般教養的なこと)を蓄えさせるため。
- ・熟語や地名などを覚えるために作られて、同じマスに止まれば止まるほど覚ええられる

《この双六が作られた江戸時代の後期はどんな時代だったか》

人材を増やすための教育機関が少なくなってきたり、双六を遊ぶ人がたくさんいたという
ことは、この時代はお金の問題もなく
国全体が安定していたのかもしれない。
教育がうまく発展しているため、後代の
学校というものを作る重要な時代なのだと
思う。

明治政治期の文化(宝暦~天明時代)から文化が文化へ展開。
多くの藩校や私塾がつくられ、各地の文化人どうし
の交流も活発になり、文化が全国的規模で発展
するようになった。
浮世絵などもはやっていった。

5 成果と課題

(1)「授業開き」としての成果

まず、初見の資料から手掛かりを見つけて推測し個々に調べる作業や絵双六の実践という共同作業を行っていく中で、関係性の薄かった生徒達が協力して取り組むことができたことが成果である。特に、絵双六の実践では、どのマス目をたどったかを記録させたのだが(前述)、班の中には自発的に記録係を務める生徒も出てきていた。

次に、提出させたワークシートからは、仮説とまではいかないものの資料と向き合って自分の意見を持つことができたことが読み取れる。「この双六は何のために作られたと思うか」の問いに対して「すごろくという遊びを通して多くの人々に一つ一つの物と

場所の名前や言葉を広く知ってもらおうとしたのではないかと考えた」とか、「この絵双六が作られた江戸時代の後期はどんな時代だったか」という問いに対して、教科書も駆使しながら「人材を増やすための教育機関が多く作られていたり、双六を買う人がたくさんいたということは、この時代はお金の問題がなく、国全体が安定していたのだと思った。」という解答が寄せられた。まだ、日本史探究では学習をしていなかった時代ではあるが、教科書の記述や既知のことがらを生かして、時代の様子を捉えようとしていたことがわかる。

絵双六の実践でいろんなマス目を往き来した生徒は、「いろんな教材を行き来して使ったのだろう」と書いてきていた（マス目は、実際に寺子屋で学ぶ順や難易度順に往来物の名前が並べられている）。さらに、別の生徒は「上に近づけば近づくほど、豪華なご飯や綺麗な絵が描かれているから、勉強すればするほどよいことがあると教えているのではないかと、自分ごとに置き換えてとらえようとしていたことがわかる。

2学期に『一遍上人絵伝』の福岡市の場面を読み解かせて、「鎌倉時代になってあらわれたと思われること・場面」について、班でテーマを選んで発表させる授業を行った。生徒たちには、「なぜ絵巻物に見られる場面が鎌倉時代になって現れたと思われるか」という仮説を考えさせたのだが、班活動で絵巻物を読み解いていく際に「4月の絵双六より、見るところがわかりやすい」と比較する声も寄せられた。4月の絵双六を観察した経験が、2学期に絵画資料を見る際に生かされての発言だろう。

歴博の保有する豊富な画像データを利用した実践は、授業開きとしての効果が十分あったと思われる。

（2）課題

①文字資料に対するハードル

今回の実践では、マス目の俳句や広告等にはほとんど触れることなく、双六とマス目の往来物の書名に主に注目させた学習をした。「授業開き」ではなく、その時代の学習で用いた場合は、マス目の内容にももう少し着目する必要があるだろう。また、絵ではなく、文字資料を主としてこの資料を利用した場合、生徒に理解させるには工夫が必要だろう。

②明治時代の絵双六との比較や歴博展示物の活用

今回は、担当科目が固定しない現職場の事情に加えて、決められた時期までに確実に実践を行わねばならないという条件もあり、年間の「授業開き」として歴博資料を用いる実践を行った。もう少し遅い時期（江戸時代の学習や明治時代の教育についての学習を行う時期）にこの資料を使用した場合は、他の時期の絵双六と比較させたりしながら生徒が高校で学習したことをふまえてより気づきの得られる実践が考えられたのではないと思われる。今後、工夫していきたい。

また、授業では、マス目の往来物について、インターネットから探した画像をパワー

ポイントで示した。しかし、歴博第3展示室の「寺子屋れきはく」のコーナーにあるパネルをもっと効果的に使ったほうがよかったと思われた。

(参考文献等)

小泉吉永

『往来物の世界Ⅱ』

<https://tosho.city.miyoshi.hiroshima.jp/topics/doc/ouraimononosakai-20190517.pdf>

国立歴史民俗博物館『歴博』N0163

くもん子ども浮世絵ミュージアム <https://www.kumon-ukiyoe.jp/>

榎田静代

『絵双六 もうひとつの楽しみ方』京阪奈新書

《使用したワークシート》

日本史資料 N02 () 年 () 組 () 番 () 資料から読み取ってみよう…文献や考古資料から読み取った事実から自分の仮説を考えてみよう 1 配布された資料を見て、「変だな」「気になるな」と思ったことを3つあげてみてください。(うち、一番変だと思ったことを foras で送信してください)。 ①  ② ③ 2 この資料の題名以外のどこを調べれば、この資料が何時代のどんなことをテーマに作られたものかわかるでしょうか。3つポイントをしぼって調べてみよう。 <table border="0"> <tr> <td>調べたところ</td> <td>調べて(検索して)わかったこと</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td>⇒</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>⇒</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>⇒</td> </tr> </table> この資料は…「」	調べたところ	調べて(検索して)わかったこと	①	⇒	②	⇒	③	⇒	3 この資料を使用した結果としてわかったこと《foras で送信してください》。 4 この資料は何のために作られたものだとあなたは考えますか。《foras で送信してください》。(評価のポイント ①文章量 ②論旨・理由 ③誤字脱字無し) 5 この資料が作られた時代は、どんな時代だったと思いますか。教科書も用いて記述してみてください。(評価のポイント ①文章量 ②論旨・理由 ③誤字脱字無し)
調べたところ	調べて(検索して)わかったこと								
①	⇒								
②	⇒								
③	⇒								

《参考 2学期の授業での生徒の記述》 見るポイントも衣食住から広がっている。

Q1 絵を見て、「〇〇なんて変だ(気になるな)」、「◎◎なんて興味深いな(面白いな)」
「△△はなんなのか(何をしているのか、何か)」と思うものを探してください。

・左身の中くらいだけ色がある。
(白い顔、髪や爪)

・白黒は白黒がはっきりしている。

・おんなはだしで2人だけくつをはいている

・3人だけしんが

・おんなは2人だけいる

Q1 絵を見て、「〇〇なんて変だ(気になるな)」、「◎◎なんて興味深いな(面白いな)」
「△△はなんなのか(何をしているのか、何か)」と思うものを探してください。

60分
・おんなは入っている人がある。

・黒い服を着ている人がある(全身黒を着ている人がある) 身長が低い

・上着身裸の人がある。↓身長低い

・おんなは1人だけいる。